

熊本博物館 企画展

「旅の巨人」と呼ばれた民俗学者・宮本常一

一熊本で見つけたモノ一



左：宮本常一（球磨地方にて）
撮影：芳賀日出男

右上下：合志義塾
撮影：宮本常一

2020. 2. 8 SAT

▷ 3.22 SUN

熊本博物館 特別展示室

開館時間 9：00 — 17：00

（入場は 16：30 まで）

※月曜日休館

（月曜日が祝日の場合は開館、翌日休館）

主催 熊本博物館

協力 宮本常一記念館

後援 熊本日日新聞社・NHK 熊本放送局

熊本放送・テレビ熊本・KKT

熊本朝日放送・エフエム熊本・FM791

熊本県博物館連絡協議会

EVENT ① 講演会

2. 8 SAT 13:30 — 15:00

「宮本常一、旅の足跡」

講師：高木泰伸（宮本常一記念館学芸員）

会場：当館講堂

定員：50名（当日9時より整理券配布）

② 講演会

3.14 SAT 13:30 — 15:00

「我が師 宮本常一」

講師：段上達雄（別府大学教授）

会場：当館講堂

定員：50名（当日9時より整理券配布）

博物館入場料 一般 400円（320円）
高校生・大学生 300円（240円）
中学生以下 200円（160円）

※（ ）内は30名以上の団体割引料金

※幼児、市内小中学生は無料（名札や生徒手帳所持者）、
障害者手帳または65歳以上の熊本市民で証明書をお持ちの方の入場料は無料です。

〒860 — 0007

熊本市中央区古京町3 — 2

TEL 096 — 324 — 3500

FAX 096 — 351 — 4257

HP <https://kumamoto-city-museum.jp>


熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM



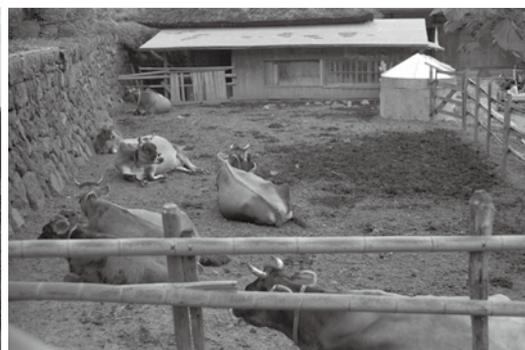
宮本常一



上：熊本での馬耕



下：熊本の鋤



上：阿蘇のジャージー牛



下：天草の柑橘栽培

※中央2枚・右2枚の写真は宮本常一撮影

OVERVIEW

近年、学校教育と地域を結ぶことの大切さが再認識されています。また、地域社会における体験的な学習を通じた人づくりも教育において重要なものになっています。本展覧会では、民俗学者・宮本常一を地域における教育のあり方を考えた人物として位置付けています。

宮本常一（1907～1981年）は日本中を旅して歩き、庶民の生活文化を調べ、その記録を多く残しています。とりわけ、山村や離島の調査に精力的に取り組みました。その上で、宮本は農業指導や新生活運動、そして観光文化などによる地域振興を進めました。宮本は持続的に地域振興を図るため、地域を担う若手の教育に力を注ぎます。宮本は熊本を訪れた際、阿蘇地方や天草地方など各地に足を運びました。その中でも、西合志村（現・合志市）にあった農家の子弟のための私学校「合志義塾」に深い関心を寄せました。それは、地域に根ざした人材を育成する学舎だったからです。

本展覧会では、宮本の旅と、彼が興味を引かれた合志義塾の魅力に迫ってみたいと思います。本展覧会が今後の地域社会における教育について考える機会になれば幸いです。

特別展示室1 「宮本常一とは」

宮本常一が使用したカメラ・鞆
『忘れられた日本人』
私の日本地図 直筆原稿

特別展示室2 「民具を通した教育」

宮本常一が指導して集めた民具
国指定重要有形民俗文化財
周防大島東部の生活用具
肥後犁（日の本号）

特別展示室3 「宮本常一が見た熊本」

宮本常一が撮影した熊本県内の写真
合志義塾の調査メモ・ノート
『月明学校』

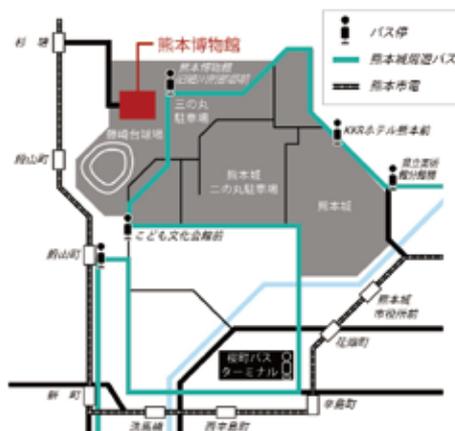
MIYAMOTO TSUNEICHI PROFILE

宮本常一（1907～1981）

宮本常一は山口県周防大島の生まれ。大阪の天王寺師範学校に学び、修斉尋常小学校の教諭になりました。その頃から民俗学に興味をもち、柳田國男の影響を受けます。その後、小学校の教諭を退職後、アチック・ミュージアムを主催する渋沢敬三の援助のもと、全国を調査し、各地で地域振興策を提言しました。後年、宮本は武蔵野美術大学教授、日本観光文化研究所の所長などを歴任しました。代表作に『忘れられた日本人』などがあります。

背景：宮本常一の故郷・周防大島

ACCESS



- バス：熊本城周遊バス（しろめぐりん）で「博物館・旧細川刑部邸前」下車
- 市電：「杉塘」下車 徒歩約5分
- 専用駐車場はありません
近隣の三の丸駐車場（有料）等をご利用ください